第１２回中野区子ども・子育て会議 議事録

【日時】
平成２７年８月２５日（火）　　１６：００～１８：００

【場所】
区役所　５階 教育委員会室

【出席者】
（１）出席委員　１２名（欠席２名）

網野会長、寺田副会長、荒牧委員、和泉委員、

安藤委員、羽田委員、今井委員、藤田委員、

青佐委員、田中委員、石田委員、本田委員

（２）区側出席者　２名

子ども教育部長、地域支えあい推進室長

（３）事務局　１０名

子ども教育部副参事	４名
北部すこやか福祉センター所長・地域支えあい推進室副参事	１名
地域支えあい推進室副参事	２名
子ども教育経営分野企画財政担当	３名

【会議次第】

（１）開会

（２）議題

①特定教育・保育施設の利用定員の設定に係る意見聴取について

②次世代育成支援行動計画（後期計画）における平成２６年度事業実績（案）について

③平成27年4月の保育施設利用状況について

④その他

（３）閉会

事務局（子ども教育経営担当）

それでは、本日会議に先立ちまして、事務局からいくつか報告をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日、小林委員、鈴木委員におかれましては、ご都合により欠席するとのご連絡をいただいてございます。したがいまして、ご出席の委員の皆様は 12 名となります。委員の過半数を超えておりますので、中野区子ども・子育て会議条例第５条に基づきまして、会議は有効に成立しております。

続きまして、事務局に人事異動がございましたので、紹介させていただきます。

≪野村地域支えあい推進室長・高橋副参事・只野副参事
・田中副参事兼北部すこやか福祉センター所長の挨拶≫

事務局（子ども教育経営担当）

それでは、会議の進行を会長、よろしくお願いいたします。

網野会長

それでは、第１２回の子ども・子育て会議を開催したいと思います。少し涼しくなり、しのぎやすくなりました。いろいろお忙しい日々を過ごされたかと思いますが、いよいよ子ども・子育ての新しい制度も軌道に乗り始めておりまして、約２年くらいですね。本当に回数を重ねた会議も一区切りついたかというふうな感じがいたします。

本日の議題は次第に書かれておりますが、その他を含めまして４件となっております。どうぞ、また十分ご審議いただきますようよろしくお願いいたします。

議題１「特定教育・保育施設の利用定員の設定に係る意見聴取」について

網野会長

それでは、議題１「特定教育・保育施設の利用定員の設定に係る意見聴取について」、これから入りたいと思います。では、事務局からご説明をお願いします。

事務局（保育園・幼稚園担当）

〈資料１を説明〉

網野会長

では、この件についてご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

私立幼稚園１園が新制度に参入ということです。特によろしいでしょうか。特にご意見ないようですので、次に移りたいと思います。ありがとうございました。

議題２「次世代育成支援行動計画（後期計画）における平成 26 年度事業実績（案）」について

網野会長

それでは、次の議題「次世代育成支援行動計画（後期計画）における平成 26 年度事業実績（案）について」、事務局からご説明をお願いいたします。お手元の資料にもありますように、体系として１から４までございます。一通りご説明いただいた上で、質疑に入りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

事務局（子ども教育経営担当）

〈資料２－１～２－２を説明〉

網野会長

ありがとうございました。26 年度の事業評価全体について説明いただきましたが、ご質問、ご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

羽田委員

各指標についてご質問します。例えば最初のページの「安心して出産に臨めたと考える母親の割合」は、3 カ月健診の受診者のアンケート調査で、対象が 350 人、該当 247 人で 70.6％とか 75.7％という指数が出ていると思うのですが、事業実績の中に、どこからデータを出したかというのを項目別に出しておいたほうがいいのではないかと思います。

というのは、おおやけから出ている調査結果は、何か区民アンケートとかそういうものを一般的に実施していて、その中で分析されて出てきたのかなと素人の考えで思っていたのです。しかし、「大きな戸惑いを感じることなく子育てをしている保護者の割合」は、毎年 3 月に行っている５歳児クラスの保護者アンケートですよね。対象の 972 人はお子さんを持っている保護者の方の何割になるかわからないのですが、大変でしょうけれども、できればより幅広く区民アンケートのようなものを実施して、そこから集約するということも今後考えていかないといけないのではないでしょうか。指標のデータとしてはやはり

１歳半健診、５歳児クラス保護者、教育委員会、保育体験に参加した中高生とか、乳幼児医療助成の受給者へのアンケートとか、やはりそれに来ている人のデータが主ですよね。本当にこういうところに来られない人や参加していない人もいると思いますので、どこからこの数字が出ているのかを事業実績に載せていただきたいと思います。また、もう少し幅広く、データを取っていただいたほうが、区民の皆さんの「よりこういうのがいいよ」という意見が把握しやすいと思います。

網野会長

各指標のデータの根拠となっているどんな調査かということですね。ほぼ母集団は共通だとは思うのですが、ちょっとご説明いただけましたらありがたいと思います。

事務局（子ども教育経営担当）

ご指摘のとおり、さまざまな対象の方、あるいはアンケートの取り方ということで、我々としては工夫をいたしましてなるべく広く意向を把握できるようにということで取り組んでいるところでございます。例えばご指摘の内容のアンケートは、区立、私立を問わず保育園、幼稚園に在園している保護者の皆様に質問をお送りさせていただいてございます。

ご案内のとおり、この年齢の方につきましてはほとんど保育園、幼稚園いずれかには在園をされている方ということがございまして、幅広く取れているのかなというふうには認識してございます。今般、皆様のお力をお借りしまして取りまとめた子ども・子育て支援事業計画におきましてもさまざまな指標を取り上げているわけでございますが、そちらでは、巻末の資料編のほうに各指標の出典一覧ということで載せてございます。

網野会長

幅広くアンケートで指標をとるということでは、かなり継続的に同じ母集団を対象にしている点で非常に参考になっているのかなと思います。ぜひ今後は今のご意見を踏まえて進めていただければと思います。ほかにいかがでしょうか。

藤田委員

質問になるのですが、こういう資料がどのように活用されているのかというのが、もう少し知りたかったなというふうに思います。例えば、この資料２－２のグラフを見ていくと、１ページのグラフの中でも 22 年度から 23 年度にかけてやはり今年と同じような落ち幅で、パーセントが 77％から 71％に落ちていますよね。例えば、これは何をやったときにこういうふうになったのかとか、逆に上がっている年もあって、これは何をやったから上がったのかとか、そういう多分これから計画に基づいて進めていく中で、もう少し具体的

に、こういう数値に対してどういう施策が行われたというものを見るのはできるものなのでしょうか。今年度まで６回のアンケート全て同じ、要は定点観測で多分続いているものだと思いますので、そういうのもあわせて読みたかったです。要望みたいな形ですが。

網野会長

先ほどのご質問とも関連しますが、お願いします。

事務局（子ども教育経営担当）

いろいろな体系の中でいろいろな目標を掲げて計画は進めているということでございます。まさに今、ご指摘をいただいたように、指標をつくってそれを評価するというのは、事業がどれだけ達成できているのか、どれだけ成果が上がっているのかをはかるためにこれがあります。それが仮に下がっているとその原因を追求しまして、改善に結びつけていきます。区政運営の中でよくＰＤＣＡサイクル（プラン・ドゥ・チェック・アクション）と言っているのですけれども、振り返りを必ず行いながら計画を実施しております。

各所管の細かな実情、あるいは分析ということでは、例えばこの本日報告しております次世代育成支援行動計画や、また、区では行政評価というものも毎年行ってございまして、各所管分野で掲げている事業の実績なども、できるだけ数値化をいたしまして公表しているところでございます。本日、細かなご説明を省略させていただきましたが、この公表の中でも実施した事業の例ということで、さまざま細かく記載をさせていただいております。これらの結果がこの数値にあらわれているということでございます。この数値をいかにして上げていくかというのは、実績から各所管のほうで鋭意考えながら、また、今回の計画では公表して区民の皆様から意見をいただきながら、改善に結びつけているということでご理解をいただければと思います。

網野会長

毎年これは報告されていますので、その変化は翌年どういうふうになったかは、それでも確かめることはできるかと思います。これホームページには毎年、過去の分は全部まだ載っておりますね。ほかにいかがでしょうか。

和泉委員

この計画自体、前期も後期も合わせるとかなり長い期間やられてきたことで、その目標の設定の仕方というのは、最初設定したのがそのまま引き継がれてしまったという部分もあったと思うのですね。やはり毎年の結果を見ていて思うのは、満足度指標を取るというときに定点観測というふうに以前も仰いましたけれども、例えば乳児健診を受けるお母さ

んたちというのは、毎年変わるのですよね。その年に生まれた方がアンケートにお答えになるので、確かにその場所は場所でお答えになるのですけれども、答える方が違うので、前と比べてどうだったかというよりは、主観的な反応になりがちだというのがあります。

例えば、体系１で一番最初の指標１で、安心して出産に臨めたと考える母親の割合が、何で23年度、26年度は下がっているのだろうというふうに考える。これは単純で、23年度は東北の震災があった年。そして26年は、実は風疹の流行があって、みんなが不安に思ったそういった時期とも重なるのですね。そういったところは主観的に見て、初めて出産を控えていて、周りで病気が流行っているというのを聞くと不安になってしまうというのがあり、これは区の施策とは直接は関係しないけれども、こういう結果になってしまう部分というのが、どうしてもあるなと感じます。

また、４ページのところですが、取組み２の指標１で乳幼児健診に満足した保護者の割合、これも主観指標なのですけれども、何を持って満足なのだろうという部分もあって、ここもかなり曖昧な部分もあります。

また、グラフで90％が一番下にあると非常に低迷しているように見えてしまうので、スケールを変えてもいいのかなと思います。当初はとても高かったのでそこをベースにスケールを定められたのだと思うのですが、この90％も十分高い数値で、満足度の高い部分だと思います。

あと子ども・子育て会議の場ですので少しお話しておきますと、この実施した事業の例の中に水疱瘡のワクチンがあります。これ昨年の10月から定期予防接種化しました。ですから希望する方はみんな無料で受けられるというそういう接種になりましたので、未就学児の方はほとんどこれをもう今大体一巡して受けられたというふうに考えています。というのは、国立感染症研究所が定点観測でどのくらい流行しているかというのをはかっているのですが、今年に入ってからこの水疱瘡、日本では流行していないのです。もうこのワクチンの効果というのは本当に大きくて、恐らく幼稚園、保育園の現場ではそういった流行が今年は経験されてないはずなのですね。春先、新入園児が集まってきたときに流行しやすいのですが、今年は一切それが起きてないというところがあります。そういった予防接種の重要性というのも広めていく、こういった充実をしっかり知らしめていくような、広報も必要かなと考えます。

網野会長

非常に参考になったかと思います。ありがとうございました。ちょうど今、お話にあり

ました４ページの下に注１として出ている子宮頸がん予防ワクチンについても、実は副作用の問題とか全国的に話題になりましたね。数値が変化する要素には、社会的な背景などいろいろなものがあるかと思います。ほかにいかがでしょうか。

羽田委員

民間の保育園で区長さんとかにお話するときに申し上げていることがございます。中野は整備された公園が少ないので新宿の公園に遊びに行くとか、住宅が狭いので練馬のほうに移動をしてしまうとか、そうした保護者の声が入ってきております。保育園は区民の方と直接触れるので、区の出先機関と変わらないような役割があります。その声もぜひ反映してほしいです。

この公園とか住居の問題では、アンケート対象である５歳児になれば、保護者はいろいろなところに行けるので満足という割合が高くなるけれども、乳児の保護者に聞いたら、もしかしたら乳児向きの公園が少ないという例も出るかもしれないですよね。１歳半健診とか、そういうお母さんたちが集まるところでも、公園の利用度とか、どういう公園が欲しいかを聞いていけば、もっと皆さんの本当のというか生の声が拾えると思います。やはりそうやって保育園に入っていない親、あと年齢層もいろいろなところというので工夫をしていただければと思います。

また、現在は、賃貸型の認可保育園が増え、園庭がない園も増えています。公園については本当にどこの保育園も苦慮していまして、公園を利用する際には近隣を気にしたりしています。区の公園でもサッカーとかボール遊びは一切禁止されていますし、園庭のある保育園でも狭いので、それでどのくらい遊べるのだろうかという課題もあります。公園政策も進んでいる部分もありますが、アンケート調査対象以外の方もおりますので、ぜひより一層の充実を目指していただけたらと思います。

網野会長

公園を豊かにする環境ということの重要性について、お話いただきました。

事務局（子ども教育経営担当）

本日ご報告申し上げております次世代育成支援行動計画につきましては、今後、この本会議におきましてさまざまなご議論をいただいて策定をさせていただきました、子ども・子育て支援事業計画に基本的には引き継がれるということでご理解ください。区の子どもに関する総合計画は、子ども・子育て支援事業計画であるということでございます。

ご指摘いただきました乳幼児の方、これは５歳児クラスの保護者の方のアンケートなの

で、もっと乳児を抱えた保護者の方にもご意見を伺うべきであるということ、また公園の課題については十分認識して進めるべきであるということにつきましては、私どもも課題認識を持ってございますので、鋭意検討をさせていただきます。

荒牧委員

29ページの学力調査項目のうち７割以上の児童・生徒が目標値を達成できた項目に、質問します。これは和泉委員が仰ったような主観的な項目ではなくて、非常に客観的な項目での経年変化を示したグラフだと思います。かなり右肩下がりに下がっている理由や分析した何かがあれば教えてください。

また、児童・生徒が一括りにされているのですが、これはやはり小学生と中学生と傾向が違うのか、それとも全体的に落ちているのか、おわかりになる資料が今あれば、教えていただければなと思います。

事務局（子ども教育経営担当）

詳細な資料につきましては、今、ご用意させていただいてないのですけれども、学力調査の内容につきましては委員ご指摘のとおりの傾向でございます。これにつきましては、小中学校を通じてということで課題認識を持っております。中野区では小中連携教育を機軸に、学力向上や体力向上を大きな狙いとして取り組んでいるところでございます。

取り組んでいる事業では、例えば小中学校教員による乗り入れ指導、相互に小学校の先生が中学校に行って教えるなど、そうしたことで中１ギャップ等の課題を解消していきたいと考えております。また、学力向上アシスタントを配置して、さまざまフォローをしていくでありますとか、この結果を踏まえまして、少しでも上げていくように改善の努力をしていくというスタンスでございます。

寺田副会長

小中学校の教員の乗り入れのお話がありましたが、保・幼・小の教員同士の連携も行われていると報告をうかがっています。各教育施設・保育施設間で見学や先生体験をしあうことにより、相互理解が深まると、学力面や、体力面でも相乗効果があるのではないかと感じています。

６ページの中野区が継続して研究されている　この『運動遊びプログラム』は、もうご存じの方も多いと思うのですが、大変すばらしい運動プログラムなのです。先ほど羽田委員も仰っていましたが、中野区の環境は確かに近隣の地域から比べてみると、公園の大きさ、保育園の園庭や園舎の大きさなど、確かに大きさという意味では、もう少し広いもの

があれば望ましいようです。同様のご意見を、職員や保護者の方もお持ちかもしれません。しかし今、限られた中で、大きな公園をつくろうということが、一朝一夕には難しいのが現状だと思います。だとすると、今のスペースの中で、狭い空間や、雨天の家の中でも、遊び方の工夫次第で、どれだけ子どもの体力を伸ばしたりできるかは喫緊の課題といえるのではないでしょうか。『中野区運動遊びプログラム』には、そのためのヒントが沢山掲載されています。例えば、ハイハイをすることが実はとても運動神経が高まったり、転倒防止の一助になるのだとか、ボール投げのコツを掴むと遊びが変化することなど沢山の内容が紹介されています。

幼稚園、保育園の先生方が親支援・親指導をしていく時に、狭い空間でもこうやって工夫して遊んでみましょうとか、こんなふうに遊ぶことでお子さんの体力が増強できます。など限られた状況の中で、今ある中野の良さや、このプログラムを享受・活用されると良いのではないかと思います。

あと、もう１点、2011 年の震災の影響が大きかったということが、いくつかの表から読み取れるのですが､やはり大震災によってとても不安になったという現状がありますよね。それがサポート体制の充実等でいろいろなところから安心感を得られ、数値が上がってきているという部分を、どこか１文でも良いですから、解説に添えられると、区民の方たちにこの報告書が可視化されていくと思います。資料の見せ方とか、説明の仕方の一助になるのかと思い、ご提案させていただきます。

網野会長

保・幼・小の連携、それから安心して出産に臨めるということでのご意見をいただきました。

ほかにいかがでしょうか。かなりいろいろご意見をいただけたかと思いますが、もし特になければ一つ、31 ページ、体系４の最初のところで、性別による固定的な役割分業意識を持たないという方向を非常に重視しているのか、およそ６割程度の実績という中で、目標値が 85％となっている、これは何か意味があるのでしょうか。昨年度の目標値ですね。

事務局（子ども教育経営担当）

前期の計画目標値が 80％ということで、目標の内容にももちろんよるのですけれども、計画は努力して成果を上げていくということを基本スタンスということで考えておりまして、１ポイントずつ上げていくようなことで、85％を設定したということでございます。

網野会長

例えば21年度の段階と５年後の昨年を見ているのですが、達成目標との開きを埋めるためには、かなり意識変革とか行動変革が必要で、そのために何をするかということが関連してくると思うのですが、もうちょっと目標を下げてというところまでは申し上げないにしても、これを達成するためには、やはり相当毎年何か、もうちょっと工夫したり努力、キャンペーンとかも含めて必要かな、というのがあるかなと思うのです。あくまでもこれは毎年80％台とか、85％ということですかね。非常に重視していることはわかりますが。

事務局（子ども教育経営担当）

この次世代育成支援行動計画につきましては、今後、子ども・子育て支援事業計画に引き継ぐということでは、ワークライフバランスという視点から、区だけではなく、都・国レベルでの働きかけや政策展開も必要であると認識してございます。もちろん区としましてもさまざまな啓発活動、こうしたものはぜひ取り組んでまいりたいと考えてございます。

ただ、会長からもご指摘ございました目標のパーセンテージの設定につきましては、ちょっと検討を要するのかなというふうに感じているところでございます。

網野会長

今の関連では32ページで先ほど説明がありましたが、自発的に子育てにかかわる父親の割合もこれだけ変化していますので、具体的にはいろいろな取り組みをなさっているのかなと思います。

荒牧委員

今、網野会長が仰ったことと関連しているのですが、28ページの指標の１、これに関してはかなり高い推移で達成しているのに、目標が70％というのも。せっかく高く達成しているので、いっそのこと例えば 100％とかに目標設定してもよいのではないでしょうか。70％のままなのは、控え目過ぎるのかなという気がしました。

事務局（保育園・幼稚園担当）

こちらの指標に関しましては、26年度の目標設定時には、まだこの調査が未実施でしたので、この目標が残っているというところでございます。調査を始めた22年度以降の推移で見ますと、大体同じようなところで推移し、ある程度高いところで推移をしておりますので、そういった意味では幼稚園や保育園での集団生活の成果は、70％よりも超えて推移しているかなという感触は持っております。

網野会長

また次の段階で検討や見直し、変化を考えなくてはいけないということかもしれません。

ありがとうございました。

おおよそこのような内容ということで、今、いろいろご意見をいただいた中で、この案をこのようなことでこの会議では了承をするということで、よろしいでしょうか。

特にないようですので、次に移りたいと思います。ありがとうございました。

議題３「平成 27 年４月の保育施設利用状況」について

それでは、議題３に入ります。「平成 27 年４月の保育施設利用状況について」、事務局からご説明をお願いいたします。

事務局（保育園・幼稚園担当）

〈資料３を説明〉

事務局（幼児施策整備担当）

現状は以上でございますが、これを受けまして現在の進めている対応、取り組み状況につきまして、ご報告をさせていただきます。27 年４月の待機児童の状況は、昨年度よりも若干減ったとはいえ、まだ 172 人という３桁の数字でございますので、子ども・子育て支援事業計画上の確保策につきましても、保育需要を見込み、施設整備を進める予定でございます。今後の保育需要につきましても、近年伸びている傾向を受けまして、再度検証し、今後の確保策を改めて検討を行っているところでございます。あわせて今年度の施設整備については、現在進めているところでございまして、認可保育所、認可小規模保育事業所の施設整備状況につきましては、次回の子ども・子育て会議のほうで、期が変わりますけれども、改めてまとめてご報告をさせていただく予定でございます。

網野会長

それでは、以上のご報告について、質疑をお願いいたします。

今井委員

新規利用状況のところで、認証保育所等の利用が去年に比べてマイナス 47 人、全体に比べたらそんなに大きな数字ではないかとは思うのですが、認証保育所の利用人数が減ったとのは何か理由があるのでしょうか。

事務局（保育園・幼稚園担当）

認証保育所のみを利用されている方が増えているかなと考えております。待機児童を数えるときは、認可保育施設に申し込んだ方が母数になりますので、そういったところがあ

るかなと思っております。

補足させていただくと、認証保育所を利用された方は、昨年と今年の４月現在では、トータルとしてはほんの少し減ったかなと思っておりますが、ほぼ同じくらいで推移していると記憶してございます。

網野会長

保育ニーズ全体の中で捉えるということですかね。よろしいでしょうか。

ほかにいかがでしょうか。非常に努力はしても、なかなか待機児童数が減らないということの背景などもご説明いただきましたが。

今井委員

今までは認定証という部分の考え方がない状態の中で、待機児童数というのが考えられてきたかと思うのですけれども、今の認証保育所にのみ申し込んでいらっしゃる方だとかというような考え方が出てくるとすると、認定証を取っていて、認証保育所にしか申し込みをしていないという方も出てくるのかなと思うのですがいかがでしょうか。結局、認定証が線引きなのではなくて、認可保育所に申し込んでいるかどうかが線引きになっているというような考え方になるわけですかね。そうすると、とりあえず認定証は持っているのだけれども、認可保育所に申し込まないという人も今後は出てくるということでしょうか。

事務局（保育園・幼稚園担当）

理論的にはそれはあり得るかと思っておりますが、手続き的には保育園、保育施設に申し込む際に、認定の申請も同時にされるのが一般的です。今井委員の仰っているとおり、申し込む際に認可保育所を申し込んで、認証保育所も申し込んでという方で保育認定を受けている方は多くいらっしゃると思いますが、最初から認証保育所に行こうと決めていらっしゃる方にとっては、区役所に足を運ぶ機会ですとか、認定行為を受ける機会、きっかけもないというところで、そういった単願、認証保育所だけに行こうと考えて行動している方は、保育認定を受けない方のほうが圧倒的に多いのではないかと思っております。

和泉委員

待機児童に含まれない私的な理由等という(5)の数字、待機児童で 69 人前年より減ったのだけれども、この私的な利用が 67 人増えているという、この私的な理由に関しては、今年度、新制度になってからこの私的な理由の内訳等は統一的な指示というのはあったのか、その内容について教えていただけますか。

事務局（保育園・幼稚園担当）

既にマスコミ等でも報道されていまして、待機児童のこのカウントの仕方は、国のほうで基本的なルールを示しているのですが、最終的には自治体の判断ですよというところがございます。国のルールの中では、今年度に関しましては育休を取っていらっしゃる方を、改めて待機児童にカウントしていいよというような記述があったこと、それから、保育所に入れなかったけれども預かり保育をしている幼稚園に通っている方々も待機児童からは除いていいよというような指示といったところが１月にございました。中野区の待機児童のカウントの仕方は、昨年度と今年に関しまして大きく変えたところは、後段で申しました幼稚園につきまして、中野区の私立幼稚園は全園で預かり保育をやっていただいていますので、幼稚園に行った方を待機児童から減らしました。けれども、それは１桁の話でございますので、そうした意味では今までの待機児童のカウントの仕方とはほとんど変えていないということで 26 年、27 年度の比較はしていただけるのかなと思います。

ただ、これは自治体間で若干取り扱いが違っておりますので、世間的には一律に報道されてしまいますけれども、若干の差異はあるかなと思っております。

網野会長

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

羽田委員

中野区の場合は希望を出すときに、希望園の数をいっぱい書けるようにしてくださっているということで、例えば第３希望くらいまでに入れている人と、それ以外のところに入った人とか、希望した園にどのくらい入れたかというデータはあるのでしょうか。

事務局（保育園・幼稚園担当）

そういったデータは取っておりません。

羽田委員

保護者の方が望んでいる保育園にどのくらい入れているのかとか、そういうデータも出していただくと、やはりより区民の方が求めている保育園像などが明確になると思います。お母さんたちは待機児にならないようにどこでもいいからとにかく入って、働かなければという思いがいっぱいだと思うのですが、やはり最初にあったような、伸び伸びと豊かな子どもたちの子育てと考えたときには、本当に親御さんが望むような保育園づくりをこれからしていかなければいけない。やはり、例えば第５希望以内に入れた保護者の数とか、そういうデータもあったほうが、環境整備の一つの根拠になると思っています。

網野会長

具体的な提案も含めてですが、何かございますか。

事務局（保育園・幼稚園担当）

利用調整を区役所のほうで行うわけでございまして、保育需要が毎年伸びている中で、そのデータをつくるといったのもシステムの変更を伴ったり、一長一短にできそうでできない課題なのかなと思っているところがございます。区民の方のご希望的にはそういったお声もあるのかなと受け止めております。あと、区民のからよくお話いただいていたのは、保育園に入るために調整指数というふうに指数で公平性を担保して調整しているのですが、そこがどれくらいだと保育園に入れるの、この園に入れるのというお声を以前いただいたことがありまして、昨年の第一次調整のこれくらいの指数だったら、この保育園にというのは集計し、出させていただいたことがあります。どういった情報を今切り取れるかという限度もあるかと思いますが、システムの関係もあって即答できませんけれども、区民の方にわかりやすく情報提供するためにはというところでは、検討を続けてしていく必要もあるかなと考えてございます。

網野会長

よろしいでしょうか。ほかにございますでしょうか。

藤田委員

この資料３の数字、１の(3)の合計、もちろん待機児童数の合計というのは、マスコミ等を含めて欲している情報ですよね。ですが、表として見たときに、空きの合計と待機児童の合計が並ぶとすごく違和感を覚えます。例えば３歳のところの空き 12 と待機児 12。これはもちろん地域のミス・マッチングに尽きるような気もするのですが、何かそういう理由の記載がない中で 149 空いているのに 172 待機というのがすごく不思議というか、違和感のある数字の並べ方だなと思いました。先ほどから、資料の見せ方みたいな話も出ていましたが、資料一つひとつの見せ方で結構住民、保護者の捉え方は変わるのではないかと思いますので、外部に公表する資料ならば工夫をされたほうがいいかもしれないなと思いました。

また、全然別の話ですが、うちの子は２人保育園に通っているのですが、今年４月から８月まで恐らく０歳児の保護者の方が保育園を見学に来るのが増えたなという実感があります。数自体はそんなに変わっていない気がすると園長先生は仰っていたのですが、時期が早まっていると仰っていました。積極的に受け入れているのもあるのかもしれないのですが、多いときだと６、７人の方がお子さんを連れて来ている。そんな実感があったので

お伝えしたいです。

もう一つは、先ほどから問題になっている公園とかプールの問題です。たまたま保育参観で、子どもたちがプールに入っているときの様子を見る機会があったのでお伝えをしておくと、先生たちの作業、例えば消毒一つとってもそうですが、やはり今通っている園児をプールに入れるのも相当苦労をしている中で、ほかの園を受け入れるのはすごく負担になるのではないかと親の目から見て思いました。そんな中でも、私の子が通う保育園は、プールを持っていない他園との交流の中で、この間、何人かプールに入れるような交流をしているようで、大変だろうなと、実感の声として伝えさせていただきます。

網野会長

ありがとうございました。実は、これが第１期の会議の最後に当たりますので、次のその他のところで、もし委員の皆様方、今のようなまさにいろいろな思いとか、ご意見とか、ちょっとお話を伺いたいと思います。

藤田委員から３つお話しいただいたのですが、立ち戻りまして待機児童の関係の資料３の１の(3)のつくり方ということで、少し疑問が出てまいりました。その点で何か事務局からございますか。

事務局（保育園・幼稚園担当）

こちらの並べている見せ方につきまして、３歳に関しては藤田委員の仰ったとおり地域のマッチングの問題かと思っております。既に幼稚園や保育園にほとんどのお子さんが通っている４歳、５歳に関しましては、この春にオープンした新設園を中心に空きが出てしまうというような実態がございました。ある意味もったいない話でもあるので、新設園にはここで少し小さいお子さんも期間限定で見ていただけませんかというようなご相談もしているところではあるのですが、やはりそこはお子さんを責任持って預かるというところでは、なかなかそう簡単にいくところでもなく、ただ、新設園にはこういったことが毎年毎年起こる傾向がもう分かっておりますので、今後何か手当てができないかなというところは、検討を進めていければなと考えているところでございます。

また、今年、例えば４歳で 48 人空いておりますが、３歳のお子さんが進級すれば、来年にはほぼ埋まってしまいます。新規オープンすると、その年度は４歳、５歳が結構空くというのは昨年も今年も同様で、今年は特に新規開設園が多かったので、その傾向は昨年よりも大きく出たかなというふうに考えております。

網野会長

趣旨から言いますと、このような公表の仕方を続けたいということになりますかね。

事務局（保育園・幼稚園担当）

そうですね。こうした公表資料に補足で何か言葉を補ったりする形をとらせていただくようになるかなと思います。

網野会長

他に、いろいろなことも含めてご発言いただければと思いますが。

羽田委員

１個質問で、予測より就学前人口が増えているということで、何か原因とかはわかりますでしょうか。中野区の出生率をいかに上げるか、ファミリー向けマンションを誘致するようなお話も耳にしましたが、区のほうで就学前人口が増えてきていることについての分析、何か理由があれば教えていただきたいです。

事務局（保育園・幼稚園担当）

就学前人口に関しましては、この１年で 581 人増えているのですが、出生数よりはそんなに増えていないので、恐らく社会的な要因、転入がこの世代で多かったのかなというような感触を受けております。一昨年から昨年の出生数は 158 人アップ、去年から今年の４月では 105 人増えてはおりますが、それよりも圧倒的に増えておりますので、社会的転入の要素が強いかなと分析しております。

網野会長

全体的な傾向で見ますと、絶対人口といいますか、出生数自体は間違いなく減り続けているのですね。ですから、どこからどこへ移動するか。自治体によってはむしろ生まれやすい環境を配慮していますよとＰＲしていますね。その影響で結果的に妊娠中の方も含めて、これから子どもを産もうという方が転入して、そこで出生人口が増えるというのも、全国の一部の地域で顕著に見られているところも出ています。ですが、全体的には減り続けていて、これはほぼ全国的に同様でしょうが、今後は減っていくことを前提に子ども・子育て支援の計画を立てて、進めているところが多いかもしれませんね。

非常に今のようなこと、待機児童だけでないさまざまな問題もありますが、せっかくの機会ですので、もし、特にまだ発言されておられない方で何かございましたらご意見などもいただければと思います。

青佐委員

意見とか質問とかではないのですが、私、地域で携わっているものに次世代委員さんを

中心とした地区懇談会というのがあるのですね。中学校区を中心に年３回、乳幼児から保育園・幼稚園までを一括り、小学生、中学生の三つの塊に分けてやっているのです。先だって乳幼児を中学生の男女、中学２年生だったのですが一緒に交流しようということで、U18 プラザへよくおいでになる乳幼児のお母さん方にお願いをして、10 組ほど集まっていただき、男女の生徒ともに赤ちゃんをまず抱っこすることからいたしました。

そのときに一番感じたのは、赤ちゃんが泣いてもすぐ手を出さないお母さん方がとても素敵だなということです。そして、中学生がどういうふうにするかを見ていて、普通だったら赤ちゃんが泣き出したら抱き取るのかなと思っていたら、そういうこともせずにじっと見守っていました。また、中学生の中で１人だけとても上手に赤ちゃんをあやしている女生徒がいましたので、「あなた、抱き方が上手ね」と言ったら、「ちっちゃい妹がいますから慣れています」と話してくれました。昔は普通だったのですが、やっぱり小さいころから赤ちゃんに携わることを経験して中学生も成長するし、そういった姿を見ることでお母さん方も成長する。大人にも子どもにも非常にいい経験だなと思いました。

網野会長

ありがとうございました。中野区は赤ちゃんとの触れ合いは結構歴史的にも以前から行われておりますね。寺田副会長、何かコメントございますか。

寺田副会長

中野本郷小学校で、赤ちゃんとのふれあい授業が 24 年前にスタートしました。例の殺傷事件があった佐世保市でも、今年着々と開始され、地域の輪が広がりつつあります。今、青佐委員が仰った、乳児に小中学生のときから出会い、触れ合い、一緒に行動するということが、まさに次世代育成支援になると思います。そして、赤ちゃんを産んでみたいなという子どもたちを育み、さらに赤ちゃんのお母さんへのサポートにもなっていくと思うのです。いい取り組みではないかと思います、今伺って大変嬉しく感じております。ぜひ今度見学に行かせてください。

青佐委員

皆さんと触れ合いの場に出てこられるお母さんとか赤ちゃんはとても幸せだなと、最後に感想を話していました。これに出てこられないお母さんを、１人でも多く仲間に入れたいなというのが、皆さんの感想でした。

安藤委員

今、子ども・子育て会議のほうで、ほとんどが保育園の制度の話が多いのですけれども、

先ほど寺田先生からお話のあった保育園、小学校、幼稚園の保・幼・小の連絡協議会というのが中野区では今推進されてやっているわけでございますね。歴史的な部分で、昭和40年初頭ですか、幼稚園と小学校との話し合いが、これ一番最初に行われ、子どもたちが幼稚園でやっている教育が、果たして小学校でどう生かされているのだろうか、どういう子どもの状態になっているのだろうかと。それがきっかけで幼・小連絡協議会というのが始まったわけです。昭和50年代になると、同じ子どもたちではないかということで、保育園が参加するようになり、昨今では日にちを定めて、お互い交流を図りながら見学し合いをやっているわけですね。幼稚園のほうも午後３時くらいまで保育をして、小学校の先生に来ていただいて、保育の状態を見てもらい、その後に会議をしていました。

そんな中でいろいろと話し合いをして、保育園、幼稚園、小学校の子どもの状態なんかを聞きながら、我々とすれば教育の始点をつくってきたという経緯があるのですね。ただ、これ、教育委員会と保育課の二つの管轄をまたぐという大きな障害があったので、これは行政として大変なご苦労があったのではないかと思うのですね。その中で子どもたちのよりよい状態、よりよい環境づくりをしようということで、今日に至ったわけでございます。

一時期は大変な時代で、小学校側も校長先生しか出なかった時代もあったぐらいなのですが、今はもう小学校挙げて、保育園も担当の先生の相当ご苦労があって、それぞれ保・幼・小連絡協議会という、非常に有意義な会を毎年開けるようになったわけでございます。

一つ質問ですが、兄弟で同じ保育園に受かる場合と、別々の保育園に行く場合と両方があると聞いたのです。幼稚園のほうはなるべく兄弟だから一緒に入れようではないかという考え方を起こすのですが、保育園の場合はそういうことは行われるのでしょうか。

事務局（保育園・幼稚園担当）

安藤委員のご質問のとおり、例えばお兄さん、お姉さんの行っていらっしゃる保育園に下のお子さんに入れたいと通常思われるので、私たちも点数制の利用調整の中で下のお子さんが入るときに加点をして、同じ園に入りやすいようにはしているのですが、調整の結果、違う園に下のお子さんが入園されることもあるのが実情でございます。

ただ、同じ園に入れるよう加点を開始してからは、以前よりも別々の園になるのは少なくなったのかなと思っておりますが、実際としてはあるのが現状でございます。

安藤委員

よくわかりました。どうもありがとうございます。

網野会長

いろいろとこれまでの評価を含めてご意見もいただきましたので今後の方向づけとしても大事な部分をいただけたかと思います。その他ということでいろいろお話伺う時間を取りましたが、もし特になければ、あと事務局のほうからはその他ございませんか。

事務局（子ども教育経営担当）

ございません。

網野会長

それでは、本日の子ども・子育て会議を終了いたしますが、一応今回が第１期ということなので、代表して寺田副会長からご挨拶をお願いします。

寺田副会長

２年間にわたり委員の皆様方には、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。１月には中野区長を初め、行政の皆様方にもご協力をいただいて、『みんなでこれからのまちづくりについて考えよう』というシンポジウムを内閣府共催で行うことができました。内閣府の皆様からも、ぜひもう一度あのような機会をつくりたいというご意見もいただいています。ゼミの学生は、自分たちの意見が反映されるような場があるのだということを知り、学生にとっても大きな学びの場頂きました。

こども子育て会議委員の皆様にも温かく見守っていただき、心から感謝申し上げます。2年間どうもありがとうございました。

網野会長

ありがとうございました。それでは、会長として私も随分いろいろなところで、この子ども・子育て会議、新しい制度に向けてのことでかかわりました。中野区は堅実に様々なことを進めている自治体の典型の一つかと思います。行政の担当の方がいろいろな会議へのオブザーバーとか、いろいろな関連のところにもおられたり、研修会にも参加されたりと、本当に熱心に中野区をどうしたらいいかということで進めてこられたかと思います。

先ほどお話もありましたが、子ども・子育て支援法ができ、27年度を区切りにまた次のステップに入ると思います。今後の方向ということで中野区の状況を踏まえて、触れさせていただくと、この制度の一つの大きな目玉、一番議論されていたのが認定こども園、取り分け幼保連携型認定こども園、これは総合子ども園という構想で進んだわけですが、いろいろな政策絡みの経緯の中で、幼保連携型認定こども園が幼保一体化の施設ということで、大きな流れ、中長期的に見ますと乳幼児期の子どもたちにとって、今後はこの幼保連携型認定こども園がかなり大きな役割を果たすだろうと思っています。これからは確実に

量的にも質的にもそれが重視される時代が来るかと私も思っている１人なのですね。

その状況の中で、もうマスコミも随分報道していましたから、ご存じのように東京都は最も認定こども園、特に幼保連携型認定こども園の増加の状況が低いのですね。大都市圏の中では目立ってそれが特徴的なところになっています。中野区もそうですが、いろいろな背景事情があるかと思いますが、今後、先ほど安藤委員も仰っていましたが、やはり幼稚園の役割ということも、いろいろな視点からまた新しい展開が求められていると思います。今後中野区が認定こども園、取り分け幼保連携型認定こども園について、どういうふうな取り組みがなされるのか私は個人的には関心を持っております。

あと新しい事業としては、地域子ども・子育て支援事業ですね。これこそ基礎自治体として最もユニークに活動できる部分ですので、いろいろな話し合いの中も含めて、中野区独自のものもいろいろ試みることができる可能性が高いかなと思っております。

十分な役割を果たせたかどうかわかりませんが､私もいろいろ学ばせていただきまして、改めて皆様方に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

以上を持ちまして終了したいと思います。最後に事務局からお願いいたします。

事務局（子ども教育経営担当）

皆さま、２年間熱心なご議論をありがとうございました。最後に私ども事務局を代表いたしまして子ども経営部長からご挨拶を申し上げます。

子ども教育部長

２年間にわたりましてさまざまなご議論をいただき、本当にありがとうございました。皆様からご意見を頂戴して無事まとまりました、この計画に従い、事業を着実に進めているところでございます。また、区では基本構想の見直し、また、基本計画となる 10 か年計画の見直しも行っているところでございます。そうした中にもこの事業計画、皆様にさまざまご意見いただいたものを、さらにいい形で反映させ、着実に中野区の子ども・子育て計画を進めていきたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

網野会長

それでは、以上をもちまして第 12 回の子ども・子育て会議を終了したいと思います。どうもご協力ありがとうございました。